



Title	世界保健デー2022
Author(s)	中村, 安秀; 柳澤, 沙也子
Citation	目で見るWHO. 2022, 81, p. 6-9
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89670
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

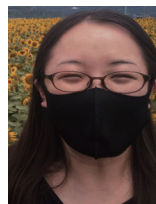
The University of Osaka

世界保健デー 2022



日本WHO協会理事長・国立看護大学校特任教授
中村 安秀

小児科医。家族連れでインドネシアやパキスタンに赴任。
「医療は文化である」をモットーに地元の医療者や住民と、
地域医療や母子手帳に取り組む。



長崎大学生命医科学域(保健学系)助教
柳澤 沙也子

看護師として病院や高齢者施設にて勤務した後、JICA
海外協力隊を経て2021年より現職。公益社団法人日
本WHO協会KGHの集い運営委員、同目で見るWHO編
集委員。

はじめに

世界保健機関（WHO）は1948年4月7日に、すべての人々の健康を増進し保護するため互いに他の国々と協力する目的で設立されました。そして、健康を定義し、健康が基本的人権の一つであることを謳ったWHO憲章が採択されました。この4月7日を記念して、世界各国では「世界保健デー（World Health Day）」イベントが開催されています。

日本WHO協会が社団法人として設立認可された1965年の翌年、1966年4月6日に第18回世界保健デー記念中央大会が京都新聞ホールで開催されました。主催は日本WHO協会、京都大学教授の棚橋諒氏による「過大都市の問題」、日本医師会会長の武見太郎氏による「日本人の健康」という豪華な講演会が催されました。それ以降、2003年まで毎年4月には京都で世界保健デー記念大会が開催され、作文コンクールなども併催されていました。

その後、日本WHO協会はWHOの名称およびロゴ不祥事などがあり、組織と役員の一斉刷新を図り、事務所を京都から大阪に移転しました。2010年3月に關淳一氏（元大阪市長）が会長に就任し、日本WHO協会のコンプライアンスを確立し、公正で適切な活動を行うなかで社会貢献するという原点に立ち戻り活動してきました。

今回の「世界保健デー 2022」は、日本WHO協会としては久しぶりの「世界保健デー」復活イベントとなりました。

世界保健デー 2022

当初は大阪商工会議所およびオンラインでのハイフレックス開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、やむなく全面オンラインに

で開催しました。日本WHO協会理事・事務局関係者、関西グローバルヘルス（KGH）の集い運営委員の有志が、オンラインまたは当協会事務局から運営に携わりました。

2022年4月7日は、平日にもかかわらず

公益社団法人 **日本WHO協会**

FRIENDS OF WHO JAPAN

「世界保健デー2022」

「世界保健デー2022」イベント

日時；2022年4月7日（木） 15:00～17:00 （オンライン開催）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界の保健医療のあり方を根本から揺るがしました。私たちは、あまりにも性急にヒトの健康だけを追い続けてきたのかもしれない。動物や植物も含めた地球規模で、わたしたちの環境や健康やいのちを考えてみませんか？

プログラム

1. 開会挨拶：中村安秀（公益社団法人日本WHO協会 理事長）
2. アドバイザリー・グループの皆さま方からの挨拶
（動画、パワーポイント、ワードなど）
3. 動画作品「ウィズコロナ 世界と共に」オンライン受賞式
（受賞動画の5作品を上映いたします）
4. パネル・ディスカッション「Our Planet, Our Health（私たちの地球、私たちの健康）」
座長：中村安秀（日本WHO協会理事長）、生駒京子（関西経済同友会代表幹事・日本WHO協会副理事長）

パネリスト：
 山極壽一（総合地球環境学研究所・所長、京都大学前総長）、
 「野生動物からみたプラネタリーヘルス」
 渡辺知保（長崎大学・学長特別補佐、国立環境研究所前理事長）
 「プラネタリーヘルスの実現に向けた取り組み」

主催；公益社団法人 日本WHO協会
 後援；厚生労働省、外務省、大阪府、大阪市
 （一社）大阪府医師会、（一社）大阪府歯科医師会、（公社）大阪府看護協会、
 （一社）生産技術振興協会

協賛；

 サラヤ株式会社 大日本除虫菊株式会社 株式会社プロアシスト
 一般社団法人セルフケア推進協議会 E-テック株式会社

新居合同税理士事務所 社会福祉法人隆生福祉会

図1 世界保健デー 2022ポスター

表1 アドバイザリー・グループ名簿(アイウエオ順、敬称略)

	氏名	所属	職名
1	生駒 京子	株式会社プロアシスト	代表取締役社長
2	乾 英夫	一般社団法人 大阪府薬剤師会	会長
3	遠藤 弘良	聖路加看護大学	名誉教授
4	岡部 信彦	川崎市健康安全研究所	所長
5	金子 修	一般社団法人 日本熱帯医学会	理事長
6	喜多 悦子	公益財団法人 笹川保健財団	会長
7	更家 悠介	サラヤ株式会社	代表取締役社長
8	澤 芳樹	一般社団法人 国際臨床医学会	理事長
9	茂松 茂人	一般社団法人 大阪府医師会	会長
10	神馬 征峰	一般社団法人 日本国際保健医療学会	理事長
11	高橋 弘枝	公益社団法人 大阪府看護協会	会長
12	武見 敬三	WHO親善大使 (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)	参議院議員
13	野崎 慎仁郎	WHO西太平洋地域事務局	事務局長室管理官
14	深田 拓司	一般社団法人 大阪府歯科医師会	会長
15	堀 浩樹	三重大学大学院医学系研究科	研究科長

わらず 300 名以上の方にお申しいただき、約 170 名の方が参加しました。関西のみならず日本全国、海外からも申込があり、医療関係者や教員、会社員、学生等、様々な職業の方に関心をお持ちいただきました。

中村安秀理事長による開会挨拶の後、本イベントにご賛同いただいた 15 名のアドバイザリー・グループの方々からご挨拶をいただきました。動画やパワーポイントにより、WHO や保健医療、様々な分野の著名人からあたたかな挨拶をいただきました。それぞれの分野の強みを活かし、また分野の垣根を越えて、世界規模、かつすべての生き物の健康に視野を広げ、考えていくことの大切さを感じる熱いコメントをいただきました。

ウィズコロナ 世界と共に

2021 年 11 月から 2022 年 1 月の間、5 分以内の動画を募集しました。国内事情優先のため先送りにされてきた「コロナ禍の国際協力」という課題について改めて考え、さまざまな分野にわたる多様なジャンルの自由な表現が集まることにより、日本の国際協力がより元気になることを願った試みです。個人から市民団体まで多くの方から、ダンスや歌、ドラマ、アニメーションといった多種多様な動画をお送りいただきました。選考委員会による選考の結果、優秀賞 5 作品、奨励賞 10 作品を選出しました。本イベントでは、受賞者からの感想と共に、優秀賞 5 作品を本シンポジウムにて上映しました。

それぞれの動画は、あたたかさや熱い想いにあふれており、元気をもらえる作品ばかりでした。参加者からは「制作者がどんな思いで創り上げたのかを考えると胸が熱くなりました」「短い作品ながら、ポジティブな気風が感じられ、視聴後様々な意味でモチベーションが上がった」といった感想をいただきました。



公益社団法人 **日本 WHO 協会**
FRIENDS OF WHO JAPAN

「ウィズコロナ 世界と共に」 動画大募集！

賞金あり

コロナ禍における国際協力と日本について「ウィズコロナ 世界と共に」をテーマに、5分以内の動画を募集します。
国内事情優先のため先送りにされてきた「コロナ禍の国際協力」という課題について改めて考えてみましょう。
世界の現状・日本のコロナ禍の現状について、考えたこと、感じたこと、提言、未来に向けたアイデアを動画にしませんか？
優秀作は、WHO（世界保健機関）の定める、世界保健デーに表彰します！

募集期間
**2021年11月15日～
2022年1月31日(月)**

表彰日（2022年世界保健デー）
2022年4月7日(木)

副賞 優秀賞 10万円（5作品）
奨励賞 2万円（10作品）

募集内容 動画（5分以内の）

表現方法 歌、演奏、フリートーク、アニメーション、絵画や写真の紹介等、自由な表現を歓迎します

応募要件 年齢や職種の制限なし。皆様の作品をお待ちしております！（1団体・1個人1作品に限る）

図2 「ウィズコロナ 世界と共に」 ポスター

表2 「ウィズコロナ_世界と共に」受賞作品一覧 (敬称略)

各賞	作品名	団体/応募者
優秀賞	蠅螂の斧	蛭名温子
	手話のできる商店街〜ウィズコロナ〜	井上裕季子
	UNITED WE JUMP!	調布青年経済人会議2021実行委員会 大庭健良
	Looking for Adventure ~beyond COVID-19~	熱帯医学 学生の輪 葛島裕士
	へんがおすがお	シネマ健康会 松本卓也
奨励賞	変えよう、未来。捨てないで、その力。	渡部拓人
	つながろうみんなで！誰一人取り残さない社会の実現を目指して	チーム歩いて行こう 友清直樹
	もっとマスクを楽しもう！	関西大学社会学部 チーム「ハンドメイド」 小嶋章弘、荒木桃夏、遠藤愛花、加藤夏希、木村純奈、上田将吾
	Garden Tambun Projectテーマソング「ウィズコロナ 世界と共に」	Tambun Project 宮野寛子
	スイソウ	武田椿
	打てないアヒルの子	関西大学社会学部 チーム「アヒルファミリーズ」 酒井翔真、後藤泰斗、小谷尚、乾ひかる、一ノ瀬真歩、吉田美空
	コロナと私に	本田光芳
	FLY YOUR DREAM PEACE	PEACE 岡本美美
	Distance Is the New Closeness	Kay McGregor
	ウィズコロナ 世界と共に また歩き出そう	尾北賢治

私たちの地球、 私たちの健康

イベントの後半は、中村理事長と生駒京子副理事長(関西経済同友会代表幹事)がファシリテーターを務め、山極壽一さん(総合地球環境学研究所、京都大学前総長)、渡辺知保さん(長崎大学・学長特別補佐、国立環境研究所前理事長)による講演およびパネル・ディスカッションを行いました。

2022年の世界保健デーのテーマは「Our Planet, Our Health (わたしたちの地球、わたしたちの健康)」です。新型コロナウイルス感染症は、世界の保健医療のあり方を根本から揺るがしました。私たちは、あまりにも性急にヒトの健康だけを追い続けてきたのかもしれない。感染症に国境はなく、今後も第2、第3のCOVID-19が地球規模で大流行する

可能性を考える必要があります。家畜や野生動物、細菌やウイルス、植物といった地球上の生き物すべての健康に配慮した上で、ヒトの健康を考える視点が必要不可欠です。

山極さんの講演「野生生物からみたプラネタリーヘルス」では、ゴリラと感染症の関連や、生物多様性等様々な側面から地球が限界を迎えていることを示しました。持続可能な開発目標(SDGs)には文化が欠けていることを指摘され、人間が生きる上で不可欠な文化は、意識の中に眠っており、数値化されないが、地域と切っても切り離せないこと、地球環境問題の根幹は人間の文化の問題であることなど幅広いご講演をいただきました。生物多様性と文化的多様性は人類に不可欠であり、関係性と循環を重要視した未来を創造するようご示唆をいただきました。

た。ある生物だけを取り出して考えることから、生物がつながりあい循環していることを意識することが今後の地球にとって重要となります。

渡辺さんの講演「プラネタリーヘルスの実現に向けた取り組み」では、地球の健康と人間の健康は相互依存的で、人間と地球の関係性を考えることは、SDGsのゴール間の関係性を考えることにもつながることを示されました。人口や豊かさが増え、環境負荷は増える一方で、地球のサイズは変わらないため、地球のサイズが見えてきた時代となりました。プラネタリーヘルスの実現には、長崎大学をはじめとする国内外の大学、社会の様々な組織の協働が必要不可欠です。人間中心の社会を持続したいなら、一旦人間中心主義を捨ててみることで、とご講演いただきました。

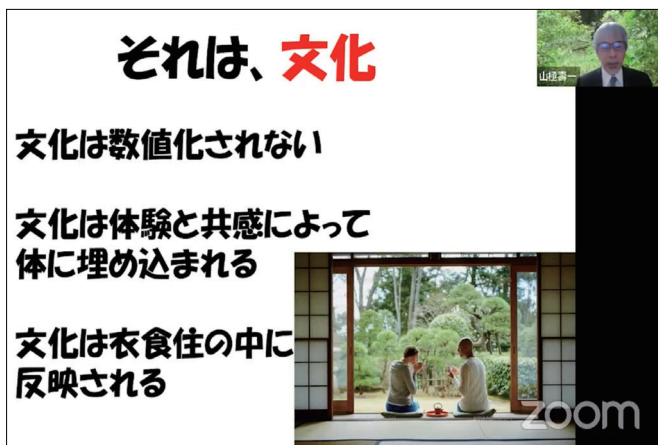


図3 山極さんのご講演



図4 渡辺さんのご講演

パネル・ディスカッションでは、プラネタリーヘルスについて様々な議論が交わされました。来たる2025年の大阪万博でも、人間と地球の関係性を踏まえることが必要となります。人生100年時代を迎える中、ゴリラは高齢者が尊ばれる社会を作っており、高齢者が生き生きと生活できる社会の設計が地球への負荷の低減にもつながる点等、様々なご示唆をいただきました。プラネタリーヘルスを踏まえると、WHOが示す健康の定義にも、人間だけでなく地球の健康も踏まえることが今後求められていくでしょう。地域にとって自分事と考えることが、未来可能性に目を向け、SDGsの実現や地球の健康につながっていくと考えます。

未来可能性に向けて

終了後のアンケートでは、参加者から「世界保健デー2022のテーマにあわせて、タイムリーな地球課題を取り上げ、2時間以上の濃い中身が凝縮されて素晴らしかった」「とても刺激的であり、新しい価値の創造を目の前にしている感覚があった」といった声が聞かれました。プラネタリーヘルスについては、「プラネタリーヘルスという言葉をもっと理解して拡散しなければと感じた」「人間だけでなく、地球規模で命・健康を考える良いきっかけになった」といった意見もいただきました。プラネタリーヘルスの概念が広がっていくよう、当協会でも尽

力していきたいと考えます。

今回のシンポジウムの様子は日本WHO協会HPにてご覧いただけます。ぜひ、QRコードのリンク先からご視聴ください。また、この場を借りて、「世界保健デー2022」に協賛いただいた企業・団体・個人の皆さまに感謝申し上げます。

日本WHO協会では、早くも2023年の世界保健デーをめざして、さまざまな活動を企画しています。「医療従事者応援はがきプロジェクト」「動画募集」などを予定しています。来年の世界保健デーのテーマに何が選ばれるのか、直前にならないとわかりませんが、2023年4月7日には「世界保健デー2023」を開催し、その年のテーマに沿ったパネル・ディスカッションを挙げる予定です。

皆さん方といっしょになって、健康について語り合い、意見を交換したいと考えています。皆さま方の積極的なご参加を心待ちにしています。また、賛同いただける方やご意見などがありましたら、日本WHO協会事務局までご連絡ください。



図5 イベント動画



図6 パネルディスカッション動画



図7 関係者集合写真